

本格再開となった食品および酒類の総合見本市

香港貿易発展局東京事務所 マーケティング・マネジャー 後藤 亜希郎

2023年8月、香港にて香港貿易発展局主催のフード・エキスポとフード・エキスポPROおよび香港国際ナショナル・ティー・フェアが同時開催され、24の国と地域から約1,800の企業・団体が出展、加工食品や調味料、飲料、世界各地のグルメやライフスタイル新製品など多彩な製品が紹介されました。試飲・試食ができる展示会が4年ぶりに再開されたことで、期間中約48万人が来場、とりわけ、B2Bを対象としたフード・エキスポPROのエリアには、JETROによるジャパン・パビリオンの他、北海道、青森、岐阜などのパビリオンが設けられ、約180社の食肉、水産品、青果物、菓子類、調味料、酒類など様々な特色ある日本の商品が紹介されました。訪れたトレードバイヤーの数は、香港と中国本土、アセアン、日本、韓国、台湾、米国、ポーランドを含む69の国と地域から計20,100人を超えました。日本畜産物輸出促進協議会食肉加工品輸出部会のブースでは、12社の商品の試食が提供され、販路拡大に向けて積極的な情報発信が行われました。その他、B2Cを対象とした



フード・エキスポPRO

フード・エキスポのエリアにも日本企業の香港現地法人や輸入会社・ディストリビューターが出展し、多彩な

商品が一般消費者向けに販売されました。日清食品やヤクルトなど大企業ブースの他にも、足立区海外販路拡大支援事業「ADACHI TIDE」として煎餅、きなこ菓子、ようかん巻き、お茶などを出展した「MATCH SHOWROOM」のブースも大盛況でした。

また、11月には酒類の総合見本市、香港国際ナショナル・ワイン&スピリッツ・フェアが、4年ぶりに本格開催さ



ワイン&スピリッツ・フェア

れました。今回は、国税庁によるジャパン・パビリオンに加え、長野県および岐阜県がそれぞれ地域パビリオンを構え、その他の個別出展ともあわせ、約50の酒蔵の商品が紹介されました。また、日本産酒類を扱う香港現地の企業や団体からも多数の出展があり、フランスやイタリア、ドイツ、オーストラリアなどワイン生産国のパビリオンと比べても、日本産酒類のプレゼンスは非常に大きなものとなりました。参加した出展者も、香港だけではなく東南アジアやアフリカなど海外各地からのバイヤーとも商談をすることができ、大きな手応えを感じられていました。香港を通じて日本産食品・酒類が世界に広がるのが、今後ますます期待されます。

2024年1月発行（禁無断転載）

目次

本格再開となった食品および酒類の総合見本市	1
当世お名前事情 ときどき香港映画 ～中文名編～	2
私と香港ビジネス	3
各界で活躍する香港日本人学校OB・OG 第3回	4
ポストコロナの大型イベント「中秋節セミナー&レセプション」大盛況	6
連合会・各協会便り	
全 国：「第24回香港フォーラム」&「第13回全国協会交流会」開催報告	7
東 京：第18期CMMS「華人経営研究」講座は4月開講です	
香港・日本経済委員会夕食会開催	8
関 西：香港昼食講演会2023（関西）開催	
「香港の集い」懇親パーティー開催	9

中 部：新体制発足に向けたお知らせ／香港の日本酒マーケットについて	10
九 州：香港視察団が来福	11
山 形：事務局長会議に際して／観光資源豊かな山形	12
北海道：北海道産品の香港向け販路拡大事業について	13
宮 城：学生部による「香港宮城交流会」を開催しました	14
沖 縄：「香港ワイン&ダイニングフェスティバル2023」参加しました	15
広 島：広島県産品×沖縄国際物流ハブ商談会	
香港広島県人会との交流会	16
新 潟：設立10周年を機に振り返る／香港と新潟の関係史	17
高 知：新年好	18

当世お名前事情 ときどき香港映画 ～中文名編～

NPO 法人日本香港協会 広報委員 汪 江美子

第36回東京国際映画祭（2023）と2回目を数える香港映画祭2023 Making Wavesの開催。日本公開20周年を記念した『インファナル・アフェア』3部作の4K版劇場公開や香港映画歴代興行収入No.1に輝いた『毒舌弁護人～正義への戦い～』の日本全国公開。

昨年は、数多くの香港映画が映画館で立て続けに上映され、多くの映画人たちが続々と来日を果たしました。舞台挨拶の登壇者として中文名で目にする事の多い監督や俳優たちの名前が日本版公式ホームページやパンフレットでカタカナ併記され告知されているのを見ると、自由な往来がようやく可能になった2023年を思い、改めて熱いものがこみ上げてきます。

さて、そんな中、私は興味深いウェブページを見つけました。「香港熱門名字排行榜」。香港版“お名前ランキング”です。日本でも、毎年、生命保険会社や出版社など様々な企業が実施した調査結果がニュースとして取り上げられますが、香港でも名前にはその時代の流行が見られるようです。香港でソースとして用いられることの多いネーミング支援サイト「NAMECHEF」(注1)のデータから、早速、最新のトレンドを見ていきましょう。

まず、男性中文名。「梓軒」「宇軒」「子謙」「樂軒」「子朗」。上位5位のうち3つに「軒」の字が含まれており、この字の人気の高さがうかがえます。一方、女性部門の上位5位は「凱晴」「芷晴」「曉晴」「子晴」「凱琳」。トップ10まで見ると1980～90年代は人気を博したといわれる「嘉欣」という名前が見当たらないほか、実に半数以上の女性の名前に「晴」の字が付いているのが分かります。

昨年、東京国際映画祭で上映された『離れていても』。政府の新人監督育成スキームを利用して制作されたこの香港映画は、幼少期に湖南省から香港へ移住した祝紫嫣（サーシャ・チョク）の初監督作品で、台湾の俳優、吳慷仁（ウー・カンレン）や巫建和（ウー・チエンホー）も起用されました。また、香港映画祭で上映され、同時期に劇場公開も果たした『毒舌弁護人』で美しくも印象

に残る悪役を演じた廖子妤（フィッシュ・リウ）はマレーシア生まれ。『アナタ』（2021）で香港電影金像獎最優秀助演女優賞を受賞するなど、現在は香港を拠点に活躍しています。

多様な人材の行き交う香港。中華圏まで広げてランキングを見てみると、男の子の名前には「軒」のほか「俊」「子」「文」「宇」の字が好まれるようで、女の子の名前の「欣」は中華圏においてどの地域でもトップ4に入る人気の字となっていました。

さて、話は戻り、法廷モノ映画『毒舌弁護人』の舞台挨拶。登場人物の役名が一般的な香港人の名前ではない



香港映画祭2023にて、主役（林凉水）を演じた黄子華と吳煒倫監督：写真中央（撮影：広報委員 武田信晃）

ことを問われた吳煒倫（ジャック・ン）監督は「主役的林凉水（ラム・リョンソイ）ですが（中略）香港人の親たちは子供の名前をつけるときに陰陽五行の属性を占います。名前に水があれば、おそらくこの人は“火”の属性がある。バランスをとるために名前に“水”を入れるのです。（中略）再審裁判を担当する検察官は金遠山（カム・ユンサン）という名前ですが、広東語で山と水は縁がある。必ずどこかで出会うという言い伝えがある。ラムとカムは性格にしても、仕事のやり方にしても全く違う。ただし正義ということに対して、2人は共通の理念を持っている。だから（中略）山と水はいつかどこかで出会って縁があるだろうという思いで名前をつけました」(注2)と答えました。

奥の深い名前と文字の世界。長い長い雨宿りをしてきた軒下から薄日の差してきた空へやっとな飛び立てるようになった2023年の香港映画界。次世代を担う「軒」や「晴」の名の付いた香港出身の子供たちと、そう遠くない将来、同じ映画界で働く日を迎えるのが私は待ち遠しくなりました。

(注1) <https://www.namechef.co/zh/>

(注2) 「エンタメ城」(エンタメパレス/略称: エンパレ)

<https://en-pare.com/entry/2023/11/05/033800>から一部抜粋

香港 中文名ランキング (2023年)

排名	男	女
1	梓軒	凱晴
2	宇軒	芷晴
3	子謙	曉晴
4	樂軒	子晴
5	子朗	凱琳
6	家樂	曉彤
7	俊傑	紫晴
8	卓霖	嘉怡
9	子軒	梓晴
10	俊熙	樂瑤

筆者作成 (参考データ: 注1)

中華圏の人気文字ランキング (2023年)

排名	男				女			
	香港	中國大陸	台灣	馬來西亞	香港	中國大陸	台灣	馬來西亞
1	俊	宇	宇	俊	穎	雨	恩	恩
2	子	文	翔	宇	欣	曉	婷	欣
3	軒	子	柏	偉	恩	欣	婷	慧
4	浩	傑	承	傑	曉	怡	欣	萱
5	文	俊	子	文	嘉	涵	宜	穎

筆者作成 (参考データ: 注1)

〈プロフィール〉

汪江美子 (わん・えみこ) / サロン・フィルムズ・ジャパン(株)営業マーケティング部長。香港を拠点に映画、ドラマ、CM等の撮影を行う総合映像プロダクション会社にて日本事業戦略を担当。慶應義塾大学大学院修了。15年半に渡る日本・東京商工会議所での勤務を経て、2019年来港。2020年より現職。

私と香港ビジネス

NPO法人日本香港協会 会員 佐藤 顕一郎

2009年4月私は初めての海外駐在を香港で始めた。以前中国語留学生として上海で1年生活したことはあったが、ビジネスとしては初めてだった。前年のリーマンショックにより香港経済も大きく影響を受けたことから、株価はまだ低迷し、不動産価格も下落（街中の不動産屋前の張り紙は「値下げ」の言葉ばかり）、失業率も高い状況であった。私の勤務先、信金中央金庫香港駐在員事務所の主な取引先は、香港、中国華南地区へ進出している日本の中堅・中小企業の現地拠点である。中国の広東省は管轄エリアの1つであったため、赴任直後に挨拶のため現地へ向かった。しかし、その頃の深圳、東莞、広州などにある外資企業が多く入居する工業団地では、多くの企業が廃業したことから空き工場が目立ち、また周りの商店もクローズしていたことから、一帯がゴーストタウン化していた。私の駐在生活は、この先一体どうなってしまうのだろうか？大丈夫だろうか？という不安から始まったのだ。

しかし、それは杞憂であった。その後4年駐在することになったが、香港での生活は私の人生において、とても印象深く中身の濃い経験ができた充実の期間であった。今回は、私が香港でのビジネスや生活において感じたことをいくつか紹介したい。

◆中国の影響が徐々に強くなる

2008年9月のリーマンショックの後、中国は4兆元規模の景気刺激策を実施することを発表した。私が赴任した4月頃には、中国本土は既に景気が回復基調となっており、香港へも中国からの資金流入が復活し、株価は日毎に上昇していった。一時期10,000台であったハンセン指数は、2009年の第3四半期には20,000台を超え、香港経済も回復基調となっていた。

中国の香港への影響は経済だけではなく、中国からの旅行者も日毎に増えていき、週末には羅湖駅にあるイミグレーションの中国側に行列ができるほどであった。彼らの香港での消費は非常に活発で、多くの中国本土からの観光客が高級ショッピングモールで買い物を楽しんでいた。香港人店員が彼らの対応をするわけだが、綺麗な発音の流ちょうな普通話で対応していたことは、とても驚きであった。なぜなら、ほんの数年前の2004年に私が出張で香港に来たときは、ホテルでも公共の場でも普通話のできる香港人は少なく、できてもどこか訛りがあるものだったからだ。

香港内の小売店やレストランが代金を人民元で受け取るようになったのは驚きであった。かつて香港ドルの価値は人民元よりも高かったため、香港ドルが広東省では使用できていた。しかし、2005年の中国による為替政策の変更により、徐々に人民元高へと進んでいき、2007年1月に価値が逆転した。逆転したばかりの頃は人民元

受取りを拒否する人が大半であったが、徐々に人民元の価値が高まっていくにつれ、受け取る人・店が増えていった。私の駐在最終年には、タクシードライバーも受け取るようになっていた。これらの出来事で、中国の影響力が徐々に強まっていくことを感じた一方、淡々とそれを柔軟に受け入れていく香港人の強さを感じた。

◆食の充実

2008年末に香港・マカオの『ミシュランガイド』が出版された。前年発表された東京版よりも三つ星を獲得したレストラン数が少ないと、一部の香港人からの不満はあったものの、星を獲得したレストランの顔触れが、中華料理だけにとどまらず多国籍だったこと、また安価な料理を提供しているレストランも獲得したことから注目を集めた。私が当時住んでいた西湾河の近くにある庶民的な店も選ばれていたことから、日本で未経験だったミシュラン店での食事を香港で初めて経験することができたのは非常な喜びであった。

香港に駐在していると多くの出張者が来るため、その接待のほとんどは中華料理で、北京ダック、上海蟹、飲茶のほか、潮州料理、湖南料理など美食が続き、毎回至福のひとつときであった。しかし、さすがに毎日このような食事が続くと日本料理が食べたくなる。香港駐在時に感じたことは、毎年日本食が充実していくことであった。当時すでに日本の農林水産品輸出先として、香港はトップであったが、多くの日系スーパーで日本各地の催事が行われ、各地の特色を持ったレストランが次々に開業し、またそれらが非常に美味であったことから、日本以上に美味しい日本料理を堪能できた時期であった。

◆香港人の優しさ

2011年3月11日に発生した東日本大震災の時、私は香港にいた。夜甚大な被害を伝えるニュースに号泣し、翌日憂鬱な気分でおフィスへと向かった。その出勤時、地下鉄で、オフィスへのエレベーター内で、昼食を買いに行ったスーパーで、多くの香港人から「家族は大丈夫か？心配している。頑張ろう」と声をかけてもらった。その時の嬉しさは表現のしようがないものであった。私が被災地への寄付を領事館にしに行った際も、日本人に負けないくらい多くの香港人が寄付をしてくれていた。香港人達の思いやりの深さ、底知れぬ優しさを感じた時であった。

香港では、ほかにも書ききれないほどの素敵な思い出を作ることができた。その思い出を色鮮やかにしてくれたのは、香港人の皆さんの優しさだと感じている。新型コロナの猛威も収まってきた今、多くの香港人がまた日本へ旅行しに来てくれている。これからは日本で香港人の皆さんへ恩返しをする時だと考えている。

かつて香港日本人学校に通ったOB・OGで、現在第一線で活躍する人たちに香港の思い出と今のお仕事を聞きました。

ゲスト：小島 慶子さん

(エッセイスト・メディアパーソナリティー)

聞き手：平野 純一 (NPO法人日本香港協会広報委員)

伊東 正裕 (NPO法人日本香港協会広報委員)

——香港に住んでいたのはいつごろですか。

小島 小学2年の6月から小学3年の12月までです(1980~81年)。香港の前はシンガポールに住んでいて、そこから香港に移りました。父は総合商社に勤め鉄鋼原料を担当して



小島慶子さん

いました。私が生まれたのは、父の転勤先だったオーストラリアのバースです。

——香港の第一印象はどうでしたか。

小島 高層ビルが立ち並ぶ洗練された地域と、アパディーンの水上集落のような生活感あふれる地域が小さな島に混在していて、すごい混沌だ！と感じました。子供ながらに、ここは貧富の差が大きい所なのだとも思いました。

自宅は香港島西側の Baguio Villa (バギオ・ヴィラ) でした。海が見える高層マンションの18階です。シンガポールでは緑豊かな住宅地の一戸建てだったので、高層マンションに住んだのは初めてでした。真正面が海で、大きな船が航行するのも見え、素敵な場所でした。

——香港日本人学校はいかがでしたか。

小島 私はシンガポール日本人学校からの転校で「日本人学校とはこういうところ」と分かっていたので、あまり違和感はありませんでした。当時シンガポール日本人学校は世界一大きな日本人学校といわれていましたから、そこから来たという一目置かれました。

転入したのは2年3組だったと思います。グレーの制服がかわいくて好きでした。シンガポールは制服がありませんでしたので。シンガポールでは裏の丘が校庭がわりでしたが、香港では小さいながらも校庭があり、うれしかったです。プールもありました。でも薄暗い半屋外のプールで、そこに飛び込まれるのが怖くて嫌だったのを覚えています。

◆市場は本当に楽しかった

——香港日本人学校の思い出はどのようなことですか。

小島 遠足で新界と大陸側の深圳との国境に行ったことが印象深いです。「フェンスの向こうは中国です」と教えられて見ると、大農村地帯が広がっていました。改革開放政策が始まったところで、中国はまだ発展する前です。笠を被って畑を耕す人を見て「わ、あっちにはムカシの世界がある！」と衝撃を受けました。

——学校に限らず、香港の生活で楽しかったことは？

小島 なんといっても市場です。母が運転するクルマに乗り、近くの華富街市(ワーフマーケット)や置富花園街市(チーフマーケット)によく行っていました。生きたカブトガニやアヒルがいて、豚のいろいろな部位が並んでいるし、大きな野菜や見たことのない果物もたくさんあるし、すごくワクワクして、市場が大好きでした。床は濡れていて、いろんな臭いがする場所でしたが、まったく気になりませんでした。

マンションの広場にはグロッサリーストアがあり、そこで買う三角柱の形をしたチョコレートのトブラローネやミルクウエイも好きでした。今では日本でもよく見かけるお菓子ですが、当時は珍しく、私の目にはキラキラまぶしく映りました。グロッサリーストアにはキャビアなども売っていたし、ちょうど住んでいた時にマンションの下に住民用のプールができて、よく友達と泳ぎました。いま思うと日本ではとてもできない贅沢な暮らしでしたね。

——市場以外でも好きな場所はありましたか。

小島 スターフェリーが大好きで、乗るとスクリーンが海の水をドドドどとかき混ぜるところをずっと見ていました。タイガーバームガーデンも好きで、何度も行きました。極彩色の地獄パノラマなど、ちょっと怖い感じもするところがいいんです。



小島さんが住んでいたバギオ・ヴィラ

あと、家から近かったオーシャンパークもよかったですね。円柱形の水槽の周りを螺旋状に降りていく作りなど、本当に驚きました。母とミニバスにもよく乗りました。

◆帰国後は学習院へ

——小学3年で帰国しましたが、その後はずっと日本の生活ですね。

小島 はい。帰国して通ったのは東京都日野市の公立の小学校です。当時は帰国子女は珍しかったので、いじめ



小島慶子氏（エッセイスト・メディアパーソナリティー）



香港時代の小島さん

られました。「シンガポールや香港ではこうだったよ」と話すと、自慢していると言われて……。

親もこのまま公立に通わ

せるより私立に入れた方がいいと考えたようで、学習院女子中・高等科に行きました。通学は片道2時間もかかり大変でしたが、同じく帰国子女の友達もできたし、学習院に行ってよかったと思います。あの時の親の選択には感謝しています。

日野市の自宅周辺では、私の家は父親が有名な会社に勤めているので、お金持ちという感じで見られていたようですが、学習院に行くと、先祖が歴史上の人物だったり、別荘をいくつも持っていたりと、すごい家の子がたくさんいるので、とたんに私は“平民”になるんですね。香港で見た多様な世界とはまた違う、未知の世界を知ってしまいました。

——アナウンサーを仕事に選びましたが、香港での生活が活きたことはありますか。

小島 多感な子どもの時期に多様性の豊かな世界を経験したことは大きかったと思います。また、帰国子女は海外経験が豊富な人や外国人に会っても驚かないですよ。見慣れてますから。

もちろん、海外にいたからといって視野が広がるとは限りませんよね。香港の日本人社会も駐在員社会という極めて特殊な狭い世界でした。大人になってから、自分は本当に限られた世界の中にいたのだなと気づいたので。恵まれた環境で、本当に世間を知らずに生きてきたということを再認識させられました。

——やはり日本ではできない貴重な体験でしたね。

小島 今は、ダイバーシティ&インクルージョンが重視されています。多様性と包摂性。様々な違いを尊重し、その組織や社会において少数者とされる人々が排除されることのないよう、共生の取り組みを推し進めるということです。シンガポールや香港での暮らしはまさに人の多様さを実感する体験だったと思います。言葉も、顔も、食べ物も、宗教も色々あることが当たり前。それが普通だと思って育ったことは、私にとって大きな財産になっています。短い期間でも一度そのような環境に身を置いたことは貴重な経験でした。

いつの時代も国と国の間にはいろいろな問題があります。例えば日本と中国もそうかもしれませんが、両国は隣同士でお互い引っ越しできない関係です。ならば、お

互いに知恵を出しあって交流して、お互いに豊かに、平和にやっていきましょうと考える以外に道はありません。

◆香港の生活は私を支える柱

——確かにその通りですね。

小島 考えが異なる人同士でも、互いに嫌な思いをせず、安全に生きていけるように共に知恵を絞ることは、個人の関係でも、国と国との関係でも非常に重要ではないでしょうか。そう思うのは、うんと違う人たちがごちゃごちゃになって暮らしている香港で育って、近所の人とも交流した体験があるからかもしれません。

——グローバルな時代に大切な考え方です。

小島 私は2014年から子供をオーストラリアで育てています。思い切った決断ができたのも、私が香港やシンガポールで生活した経験があったからです。オーストラリアでは、アジア系はマイノリティーです。マイノリティーなりの苦労があることは分かっていますが、それでもこれからの世界で生きていくには、小さい時から自分とは異なる人との接点を持ち、少数者になる経験を持つことが重要です。

——世界のどこでも住めるぞということですね。

小島 簡単なことではないですが、息子たちには自分なりにどこでも生きていけるという自信をつけて欲しいです。私の香港での生活経験は短い期間でしたが、今でも思考を支える柱の一つになっています。

——帰国後に香港へ遊びに行くことはありますか。

小島 残念なことに一度も機会がないんです。ただ、パスには香港経由で行っています。離着陸時に空から見える香港は、このあいだ作りかけだった橋がもう架かっている！という具合にどんどん変わっています。香港はいつの時代も変化が激しい都市ですね。

——そうですね。本日は大変ありがとうございました。

〈小島慶子さん略歴〉

1972年オーストラリア・パース生まれ。商社に勤める父親の仕事の関係で、小学1年生でシンガポール、2～3年生を香港で暮らす。学習院大学法学部政治学科卒業後、95年にTBSにアナウンサーとして入社。2010年に独立後はエッセイスト、メディア出演などで活躍。東京大学大学院情報学環客員研究員を務める。



左から伊東、小島慶子さん、平野

ポストコロナの大型イベント「中秋節セミナー&レセプション」大盛況

NPO 法人日本香港協会 副会長・ビジネス交流委員長 野島 威

2023年9月27日、日本香港協会・香港貿易発展局共同主催による「中秋節セミナー&レセプション」が如水会館にて大々的に開催されました。前半のビジネスセミナーの部は、会場参加とオンライン参加併用のハイブリッド形式での開催、後半のネットワーキングレセプションの部は、別会場にて会費制の立食パーティを執り行いました。長く続いたコロナ禍の影響で、リアルに大勢の方々が集結するイベントは、暫くの間ほとんど開催できませんでしたが、今回はその反動でしょうか、セミナーはリアルで130名、オンラインで80名、合計で200名超、レセプションは約100名の参加者を集め、成功裡に幕を閉じました。

セミナーの部は、日本香港協会の佐藤征洋会長による開会挨拶、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表による歓迎挨拶に続き、基調講演として、日本、米国のみならず中国、香港でも幅広い人脈をお持ちのアライアンス・フォーラム財団会長、DEFTA Partnersグループ会長の原丈人氏をお招きし、「国際ビジネスセンターとしての香港の過去・現在・未来～その強さの核心に迫る」と題して熱のこもったお話をいただきました。原氏は自らの著書の中で、新たな資本主義、即ち「公益資本主義」を提唱、利益は株主だけでなく従業員、顧客、取引先、地域社会、さらには地球全体に還元されるべきで、企業は社会の公器であり事業を通じて社会に貢献しなくてはならないと主張しています。ともすると近視眼的に株主に対する短期のリターンを得ることを主目的にしている米国型の「株主資本主義」、その影響を受けている日本の産業構造に疑問を持っている私にも、腑に落ちるご説明をいただき、まさに今の日本の課題が浮き彫りになったように思えました。

原氏は、「健康で教育を受けた豊かな中間層を世界中につくる」をモットーに、香港におけるアジア有数の5大学の中に育っている優秀な人材を活用し、香港政府と共に新しい産業をつくることに腐心されておられます。その実、原氏は香港では政府傘下のHKSTP特別顧問、中文大学医学部榮譽教授、同経営大学院招聘教授や香港理工大学国際学事顧問を務め、政官財界に広く助言を行っておられます。特にバイオテクノロジーやライフサイエンスの分野では、香港と祖国である日本が一緒になって新たな産業を育成し、中国をはじめRCEP諸国や世界に広がる可能性のある実体産業を創出、雇用の拡大と豊かな中間層をつくるために日夜活

動されています。共和党ビジネス諮問機関名誉共同会長など要職に就かれている米国のみならず、中国においても「公益資本主義」の考え方は共感を得ており、日本では安倍元首相や岸田首相にも指南役として影響を与えてこられたことは驚きに値します。余談になりますが、原氏は横浜に「鉄道模型ミュージアム」をお持ちです。私の前職の会社が、原氏が懇意にされていたロンドン鉄道模型ミュージアムの閉館にあたり、その所蔵品を引き受けたことで、近い将来その収蔵場所にご案内することとなりました。原氏の携わっている事業領域の広さにも大変驚かされたとともに、不思議なご縁を感じました。

続くパネルディスカッションでは東京理科大学の中野嘉子教授をモデレーターにお迎えし、「国際ビジネスにおける香港の機能・魅力・発展性」について、金融界を代表して香港上海バンキングの松井泰樹副会長、物流界を代表してケリーロジスティクスジャパンの姚萌社長、スタートアップ分野代表でCogSmart社長室秘書の中村匠汰医師にそれぞれのお立場から香港のビジネスハブとしての優位性、魅力や活用法について、ご解説いただきました。参加された方々は、香港の重要性を再認識していただけたものと思います。

セミナー終了後のネットワーキングレセプションでは香港特別行政区駐東京経済貿易代表部のウィンサム・アウ首席代表による来賓挨拶、中華人民共和国駐日本国大使館経済商務部の宋耀明公使による乾杯挨拶の後、参加者同士の交流・歓談が行われ、皆様が楽しみにしていたラッキードローに移りました。日本香港協会の法人会員様からの多数の賞品提供があり、大湾区航空の航空券やWharf Hotelsグループのホテル宿泊券など豪華賞品の抽選には、会場中が大変盛り上がりしました。この場をお借りしまして、賞品をご提供いただきました企業の方々には改めて御礼申し上げます。



レセプションにおける登壇者集合写真(左から中野嘉子氏、ウィンサム・アウ氏、宋耀明氏、佐藤征洋氏、ベンジャミン・ヤウ氏、原丈人氏、中村匠汰氏)

「第24回香港フォーラム」 & 「第13回全国協会交流会」開催報告

2023年12月5・6日、香港ビジネス協会世界連盟（Federation of Hong Kong Business Associations Worldwide／本部＝香港貿易發展局内）の世界大会「香港フォーラム」が、香港コンベンション&エキシビジョン・センターにて開催されました。コロナ収束後、約4年ぶりの現地リアル開催となった本年は、全世界から約300名弱の会員が参集、日本からは総勢86名のメンバーが参加しました。

◆東京協会会員が「スタートアップアワード」を受賞！

例年どおり、2日間の会期中には、昼食講演会、パネルディスカッション、ワークショップ、視察ツアー等数多くのイベントが催されました。初日冒頭のプレナリーでは、香港政府の文化事業振興について、西九龍文化地区の開発に携わる、西九龍文化地区管理委員会陳智思（バーナード・チャン）副会長から、香港が文化資産に対して持つ独自の視点や創造性を通じて、どのようにし「アジアの文化拠点としての地位を確立しているか」について紹介されました。メインセッションでは、次世代ビジネスリーダーの洞察と経験を持つパネリストが、変化する香港ビジネス環境に合わせて、どのようにイノベーションを起こしているかについて説明、テーマ別セッションでは「アジアにおけるヘルスケア投資とイノベーション拠点としての香港」と題し、香港のヘルスケアとバイオテクノロジー領域における展望について、議論を行いました。

開催初日のウェルカムディナーでは、世界中のメンバーが一堂に会し、国際色豊かな交流を通じて、美味しい中華料理を囲みメンバー同楽しいひと時を過ごしました。

2日目の昼食講演会には香港特別行政区政府ポール・チャン財政長官が登壇しました。2017年1月に財政長官に就任したチャン氏は、香港ビジネスを前向きに建設的な内容で語ることで多くの視聴者を勇気づけ、常に革新する香港の魅力を映像を交えて参加者に伝えました。

また、世界各地の協会の活動に対する表彰式では、世界各地からの多数の応募の中から、地区（アジア・オーストラリア地区、ヨーロッパ地区、米州地区）毎の代表が選ばれ、ビジョン、アイデア、製品・サービスのクオリティ、テクノロジーと革新性、経済的な成果等が審査され、成績優秀な設立5年以内の企業に贈られる「スタートアップアワード」を東京日本香港協会の会員であるCogSmart社が見事に受賞、全世界の協会



「スタートアップアワード」を受賞した東京の会員「CogSmart社」と日本香港協会のメンバー

メンバーの面々から喝采を浴びました。

2日間のオプションシティツアーでは、カイトック・スポーツパーク、香港故宮文化博物館、ビッグバスツアー、ピークトラム、スカイテラス428等を訪れるプログラムで、参加者一同香港の新旧名所を楽しむことができました。

◆日本香港協会全国の協会メンバーが香港に集まりました

香港フォーラムの前日、12月4日には、「ビクトリア・ハーバー・スプリーム」において第13回全国協会交流会が開催されました。また、交流会に先立ち、第12回日本香港協会全国連合会総会が開催され、今年一年の活動を振り返るとともに、来年の新たな事業計画が討議されました。

全国交流会では本年度の幹事協会であるNPO法人日本香港協会（東京）の古川真理子理事の進行のもと、佐藤征洋全国連合会会長の開会挨拶、在香港日本総領事館岡田健一総領事（大使）、中華廠商聯合会（CMA）ラルフ・チャウ行政総裁の来賓挨拶、香港貿易發展局サービス推進部バイロン・リーアソシエイト・ディレクターの乾杯の音頭で始まりました。

終始なごやかな雰囲気で行われた交流会は大きな拍手とともに幕を閉じました。

全国交流会は、各地の協会の会員の皆様が一堂に会し、年に一度香港で交流ができる機会ということもあり、今年も大盛況の宴となりました。是非来年は、今年お越しいただけなかった皆様にもご出席いただき、メンバーとの交流、ネットワーキングを深めていただければと思います。

最後に、各地協会の会長、理事、会員の皆様、また事務局の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



日本香港協会全国の協会のメンバーが香港に集まりました



NPO法人日本香港協会 理事 桜井 知治

第18期CMMS「華人経営研究」 講座は4月開講です

前期も全講座をオンライン化した結果、海外含む全国各地から74名の応募を頂き、九州・関西・新潟・宮城、各地日本香港協会会員の方々の受講もありました。今期は来る4月より開講致します。初の試みとして、17講座中、14講座は録画視聴可と致しました。各地の日本香港協会の会員の皆様におかれては、奮ってお申し込み頂きますようお願い申し上げます。

- ・開催期間：2024年4月11日より2024年8月8日まで
毎週木曜
- ・時間：19時～20時45分（日本時間）
- ・形式：全講座オンライン・録画視聴可
（自宅または勤務先で受講可）
- ・内容：理論編8講座、実践編9講座 全17講座
- ・受講料：会員4万円、一般5万円
分割受講可（3講座以上、1講座3千円）

- *理論編又は実践編のみの受講も可
（会員2万5千円、一般3万円）
- ・募集人員：50名（先着順）
講義概要は次の通りです。

理論編：古代から現代まで思想文化と歴史を概観し、そこから派生した「国情」「中国思想」「戦術」の3つの分野に焦点を当て、中国人特有の関係、面子、人情の本質に迫ります。

実践編：理論編で得た知識を実践で生かせる講座です。「経済分析」「事業経営戦略」「リスクマネジメント」「香港コネクション」の4つの分野で経済界中心に活躍中の9名の講師が、現場での経験談を含め実践的な講義を行います。

今期は、特に昨今の中国経済を取り巻く環境の激変を鑑みて、日系企業はどう戦略を考え事業リスクをマネージしていくのか、CMMS講座はその答を提供致します。詳しくは「受講申込書」を含めて日本香港協会のウェブサイトイベント・カレンダーに掲載中です。

NPO法人日本香港協会 理事 脇田 誠

香港・日本経済委員会夕食会開催

昨年10月4日東京紀尾井町にある赤坂プリンスホテルクラシックハウス・クラシクルームにて香港・日本経済委員会の夕食会が開催されました。香港・日本経済委員会（HK-JBCC: Hong Kong-Japan Business Cooperation Committee、委員長：デビッド・チュウ Far East Consortium International Ltd 会長）は、香港・日本間における貿易、投資、その他の経済協力の促進を目的に1979年に設立され、香港貿易発展局が、当委員会の事務局を務めています。日本では日本経済団体連合会に日本・香港経済委員会が設置されています。両委員会は一年に一回東京と香港持ち回りで日本・香港／香港・日本経済合同会議を開催しており、今回は東京開催となりました。

合同会議では経済情勢の相互情報提供や商業協力、課題解決など、日本と香港の間にある諸課題の対応として多くの案件が議論されるなど、日本と香港における経済交流活動に寄与しています。香港・日本経済委員会は、香港財界を代表する商社、物流、金融、貿易、製造業、ゼネコン・インフラ、技術エンジ

ニアリングなどさまざまな業界のトップクラスの財界人によって構成されています。今回の夕食会は、香港貿易発展局東京事務所が主催し、日本香港協会からは佐藤会長、野島副会長、梅津理事、中江理事、松田理事、ゲーリー・クォック理事、脇田理事が参加し、デビッド・チュウ委員長はじめ香港から来られた皆さんを熱烈歓迎しました。在香港日本国総領事館から岡田大使兼総領事もご出席され、和やかながらも格式高い夕食会となりました。香港から来られた皆さんは、翌日の本会議に向けて弾みがついたと喜んでいらっしゃいました。



香港・日本経済委員会夕食会



香港昼食講演会 2023（関西）開催

香港はコロナの影響が大きかった2022年のマイナス成長から一転し、2023年度の香港経済は目をみはる回復を遂げています。陳茂波（ポール・チャン）財務長官は香港を国際的なグリーン技術と金融の中心地として発展させると述べ、イノベーションとテクノロジー分野も更に強化していく方針です。この度、新たな段階に入った香港の「金融と投資」をテーマにし、大阪と香港の未来を展望した昼食講演会を10月24日にインターコンチネンタルホテル大阪で開催し、138名が参加して盛会でした。

昨年9月29日の香港特別行政区設立25周年昼食講演会以来2回目の昼食講演会は、香港貿易発展局と関西日本香港協会が主催し、大阪商工会議所が共催、JETRO、中小企業基盤整備機構、関西経済連合会、大阪産業局、大阪国際経済振興センター、日中経済貿易センター、日中経済協会が後援し、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部が協賛してくださったことにより、参加者の顔ぶれがハイレベルで凄い講演会になったとの印象を強くしました。また、沖縄から福井までの西日本地区自治体の代表も参加していただき、大変盛り上がりました。



香港昼食講演会 ベンジャミン・ヤウ氏挨拶

講演会は、関西日本香港協会の戒田真幸会長の開会挨拶で始まり、香港貿易発展局のベンジャミン・ヤウ日本首席代表が歓迎挨拶をし、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のウィンサム・アウ首席代表と近畿農政局の安東隆局長が来賓挨拶をし、中華人民共和国駐大阪の薛劍（せつけん）総領事が乾杯の挨拶をされて昼食が始まりました。各テーブルではホテル特製の美味しい和食弁当をいただきながら皆さん友好的な雰囲気になりました。

約30分の昼食を楽しんだ後、トラスター・キャピタル・パートナーズ・ジャパンの中野宏信会長が「香港の金融投資機能と事例」と題した講演を行い、続いて、インベスト香港のキング・リヨン金融科技主管が「投資先



香港昼食講演会 パネルディスカッション

として有望な香港—金融サービス&フィンテック業界」について講演されました。お二人は限られた短い時間の講演でしたが、印象に残る多くの資料・写真の映像を使って丁寧に解説されました。

約30分の講演の後はプライマシー・コンサルタントの松田庄平代表（元法政大学教授）にモデレーターをお願いし、講師を務めた中野宏信氏とインベスト香港の西日本担当コンサルタントの中田武正氏お二人のパネリストによるパネルディスカッションを行い、参加者からの質問をベースに有意義な意見交換がなされました。

講演時間を短くし、パネルディスカッションを加えたことにより引き締まった雰囲気の中で率直な意見が述べられ、インベスト香港の活動内容などもPRできて、大変有意義な講演会になりました。講演会は、香港貿易発展局のリッキー・フォン大阪事務所長の閉会挨拶で無事終了しました。

「香港の集い」懇親パーティー開催

11月20日に中華料理「大阪聘珍楼」で「香港の集い」懇親パーティーを開催し、44名の参加者が美味しい広東料理とラッキードローを楽しみました。

ラッキードローでは30個の景品が用意され、特別賞のキャセイ航空提供の香港往復ペアチケットのくじ引きの際には会場が大変盛り上がり、楽しいパーティーでした。



「香港の集い」懇親パーティー・ラッキードロー特別賞



新体制発足に向けたお知らせ

この度、中京日本香港協会は新たな役員を迎え入れ「中部日本香港協会」としてスタートを切ることになりました。新体制のもと活動範囲を中部地域全体に拡大し、会員の増強ならびに香港とのビジネス促進により一層邁進してまいります。役員や事業計画などの詳細については、会員の皆様に後日改めてお知らせいたします。

新体制発足後も変わらず、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

香港の日本酒マーケットについて

昨年は新型コロナウイルスに関連した香港の水際対策が撤廃され、香港との往來が正常化したことから、幸運にも現地へ渡航する機会が複数回ありました。香港滞在中にスーパーマーケットを訪問し、日本から輸出される生鮮食品や酒類などを見ることは習慣の一つです。どの産地の商品がどのような価格帯で市場に出回っているのか、他の国・地域の商品と比較してどのような違いがあるのかについて、市場調査を行うようにしています。8月からは東京電力福島第一原発の処理水放出をきっかけに10都県からの水産物に対して禁輸措置が取られたものの、日本産食品の人気は衰えていません。中でも、ここでは、香港の日本酒マーケットについてご紹介いたします。



シティ・スーパーの酒類コーナー（2023年4月撮影）

2022年に日本から輸出された日本酒（清酒）のうち、輸出額ベースで仕向地として第3位にランクインしている香港では、たくさんの日本酒が市場を彩っています。その種類は、日本国内のスーパーマーケットで一般的に見られる数を大きく上回っている印象です。また、輸出金額を輸出量で割った1リットル当たりの単価を見て

みると、香港は約2,600円となり、輸出額1位の中国に対し1.4倍、2位のアメリカに対し2.2倍で、高い価格帯の日本酒が流通していることが分かります。

香港貿易發展局では例年11月に、酒類の展示会「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア」を開催しています。新型コロナ

ウイルスの流行後、4年ぶりの本格リアル開催となった2023年度の同展示会には、中部地方からも多くの酒蔵が出展しました。中でも、岐阜県は2018年から連続してパビリオンを設置しており、7つの酒蔵がこだわりの商品をバイヤーに向けてPRしました。

多種多様な日本酒が並ぶ香港に対しては、既に「市場が飽和状態」であるとの声を聞くこともありますが、魅力ある商品にはまだまだチャンスが広がっていることを体感しました。スパークリング日本酒や古酒にも期待が高まっており、さらには香港企業が日本の酒蔵へ出資するビジネスモデルも近年増加しています。香港市場を目指す酒蔵がますます増えることを願っています。



陳列されるたくさんの日本酒（2023年11月撮影）



バイヤーで賑わう岐阜パビリオン

香港視察団が来福

2023年8月29日から31日にかけて、新華集団ジョナサン・チョイ（蔡冠深）会長率いる視察団22名が香港、マカオをはじめとした大湾区各都市とベトナムから来福されました。視察団は、香港中華総商会、広東香港澳門大湾区企業家連盟、香港ベトナム商工会議所、新華集団から構成され、九州経済連合会、福岡県庁を訪問し、30日には、昼食講演会と講演会・懇親会の二つの式典が開催されました。

◆九州経済連合会訪問・昼食講演会

視察団は30日の午前中に九州経済連合会を訪問。連合会会長の倉富純男氏と対面し、チョイ会長が大湾区とベトナムにおける新華集団の活動や、地域の経済発展について語られました。また、両者は日本、大湾区、ベトナム間の事業連携の可能性についても議論されました。

その後開催された昼食講演会にて、広東・香港・澳門大湾区企業家連盟と九州経済連合会の間でMOUが締結されました。これを機に両者は大湾区と日本の友好関係の強化と、観光業・産業などの業界におけるビジネス連携を今後促進していくことを表明いたしました。

昼食会では、チョイ会長、倉富氏より挨拶のお言葉をいただき、さらには香港駐東京経済貿易代表部ウィンサム・アウ首席代表にもご登壇いただきました。また、九州からは倉富氏のほか、日本貿易振興機構森則和福岡所長、九州大学石橋達朗総長、九州経済フォーラム・九州日本香港協会石原進会長、福岡地域戦略推進協議会麻生泰会長、九州経済産業局藤原晋一国際部長らをはじめとする、九州の産学官を代表する方々合わせて80名がご出席され、大湾区、ベトナムの財界とのさらなる親交を深める機会となりました。



昼食会の全体写真

◆講演会・懇親会

同日午後には、九州大学の日本ジョナサン・KS・チョイ文化館にて九州大学、香港中華総商会、広東香港澳門大湾区企業家連盟、香港ベトナム商工会議所、九州経済フォーラム、九州日本香港協会主催、新華集団共催により講演会・懇親会が開かれました。

講演会では、チョイ会長、中国駐福岡総領事館の律桂



懇親会の様子

軍総領事、在福岡ベトナム総領事館のヴァー・チャーマイ総領事、九州経済産業局の苗村公嗣局長、新華GBAジェイソン・チョイ社長、新華集団のジェシー・チョイASEAN地域ディレクター、株式会社CogSmart・一般社団法人Advalife Science中村匠汰医師、九州大学オープンイノベーションプラットフォーム長の福田晋理事の8名をお招きし、「日本、大湾区、ベトナムにおけるビジネス、イノベーション、文化協力について」という題目に沿ってご登壇いただきました。また、これを機に二つのMOU調印式が行われました。一つ目のMOUは、北京チョイセンタークラウド・ハウスとベトナム国立大学ジョナサン・チョイ文化センターの間で締結され、両者は九州大学ジョナサン・KS・チョイ文化館との文化交流の機会を積極的に図っていくことを約束されました。二つ目のMOU、九州大学オープンイノベーションプラットフォームと新華イノベーションズの調印式では、両者が共に世界各国の大学、企業、投資家、後援団体のグローバルネットワークを構築しながら、新たなエコシステムを創造していくことを表明されました。

講演後には懇親会が開かれ、視察団と参加者の交流の場が設けられました。講演会・懇親会には総勢120名もの方にご参加いただき、お陰様で盛況のうちに終わることができました。

◆福岡県副知事表敬訪問

31日、チョイ会長は視察団を率いて、福岡と香港間の交流・協力・連携関係の強化のために福岡県の江口勝副知事を表敬訪問しました。両者は福岡と香港の貿易の歴史や、福岡の輸出入産業、大湾区のハイテク技術、ベトナムの若い労働力について語り、特にイノベーションの発展を念頭とした連携の必要性を強調されました。

そのほかにも、視察団はスタートアップ支援に力を入れるFukuoka Growth Nextや、明太子の製造過程を見学できる博物館「ハクハク」、櫛田神社やキャナルシティなど福岡を代表する観光地を訪れました。3日間の短い期間でしたが、九州と香港、大湾区、ベトナムの今後の連携を図るという視察の目標を十二分に果たすことができたのではと感じております。



山形日本香港協会 事務局

事務局長会議に際して

去る2023年9月11日、毎年必ず開催される事務局長会議がWebにて開催されました。会議では、山形日本香港協会の組織体制（執行機関）、会員数の推移、過去1年間の活動報告を発表させていただいております。その内容について、本稿にても共有いたします。

組織体制（執行機関）については、前年からの変更点はなく、会長1名、副会長9名、理事16名、監事1名、顧問4名の体制となっております。また、会員数については、法人会員34団体、個人会員3名、特別会員2団体となり、合計で39の会員数となっております。

前年同時期と比較しての会員数については、法人会員、個人会員、特別会員ともに増減なしとなっております。一昨年の10月29日に開催されました「香港特別行政区設立25周年記念昼食講演会2022」を機会として、新たに株式会社半澤鶏卵様（飛龍103号に「スモッチ 香港への輸出に向けたチャレンジ!」として寄稿いただきました。是非ご一読ください）より、新規法人会員としての入会がありました。また大沼会長のご紹介により、新規の個人会員入会が1名ありました。過去1年間で新規会員の入会はあったものの、退会された会員もいらっしやったため、総数での会員数増減はありませんでした。特別会員については、引き続き山形県と山形県議会に加入させていただいております。

2017年に再結成し、新たにスタートを切った山形日本香港協会ですが、会員数は、新規入会会員と退会する会員とでの入替がありながら、ほぼ横ばいにて推移しております。今後の山形日本香港協会の会員拡大の目標としましては、法人会員・個人会員・特別会員を合わせて50の会員数を第一段階の目標として活動を進めていくことで、大沼会長との打合せであらためて確認しております。

観光資源豊かな山形

山形県は、農産物や日本酒、加工食品など香港をはじめとした海外に対する輸出の可能性を秘めた商品を有する企業、野心のある企業が県内各地に数多くあります。また山形県は、蔵王や山寺に代表される豊かな観光資源も有している県でもあります。これらの輸出や観光に携わる企業の方々に対して、春節のイベントやセミナー、香港フォーラムなど様々な機会を

とらえ、また日本香港協会全国連合会や香港貿易発展局の皆様のご協力を賜りながら、山形日本香港協会の会員拡充を図っていきたく思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

一昨年の事業

報告としましては、残念ながら春節でのイベント・セミナーは開催することができませんでした。香港貿易発展局の皆様のご協力をいただきながら、前述の「香港特別行政区設立25周年記念昼食講演会2022」を無事、60名という多くの方々にご参加を賜り、開催することができました。山形日本香港協会としては、2020年2月の春節パーティー、セミナーの開催以来、約3年半ぶりに対面でのイベントとなりました。また、今年度の事業計画として、2023年度香港フォーラムに、現時点で山形日本香港協会から5名の参加を予定しております。来年度の計画としては、2月頃を目標として、4年ぶりの対面方式での春節セミナー、イベントの開催を計画しております。コロナウイルスによる影響を終息しつつあり、開催への機運が高まっておりますので、是非開催を成功させたいと思います。引き続き、皆様のご協力、ご指導の程お願いいたします。



現在香港で販売中の「スモッチ」2種
(撮影：広報委員 伊東正裕)



香港ビクトリアハーバー (撮影：広報委員 小柳淳)



HOKKAIDO

北海道日本香港協会

北海道日本香港協会 事務局

北海道産品の香港向け 販路拡大事業について

香港最大の食の展示会「美食博覧 (Food Expo)」が香港コンベンション&エキシビションセンター (HKCEC) にて8月17~21日に開催され、そのうち17~19日の3日間にわたってBtoBに特化した「美食商貿博覧 (Food Expo Pro)」が開催されました。

今回のフードエキスポでは、新型コロナウイルスの感染予防措置の全面撤廃後初めて飲食が解禁されたこともあり、同時開催された4つの見本市合わせ来場者数は延べ48万人弱 (前年43万人)・出展者は24カ国・地域から計1,800社・団体超の大規模グルメイベントとなりました。



札幌食と観光国際実行委員会による北海道ブース

4年ぶりにJETRO主催でジャパンパビリオンが設置されたほか、各都道府県や初めて北海道からもブースが設置されました。

北海道ブースは「札幌食と観光国際実行委員会」が主催となり開設したもので、ブース開設のほか香港流通視察ツアー・地元小売店舗におけるテスト販売も併せて実施され、アフターコロナの香港市場を知ることができる



北海道の食材を試食・試飲する来場者



現地スーパーを視察中の参加者

充実した内容で、札幌圏だけでなく北海道全域から数多くの企業が応募され8社の企業が参加しました。カテゴリーとしては、菓子・水産加工品・調味料・健康食品とバラエティに富み、フードエキスポでは、現地バイヤーのほか最終日には一般公開され数多くの生の声を聴くことができたといっています。

香港視察ツアーは、そごうやイオンをはじめ現地ローカル・日本食品取扱い商店などに訪問。テスト販売会では、地元「81 駅」にて販売を行い、日本食に関心の強い地元の方々と数多く情報交換を行いました。



テスト販売会の様子

北海道ブースを主催した「札幌食と観光国際実行委員会」によると、商談や市場視察を通じて北海道ブランドの認知度の高さを再認識したこと、コロナ禍を経て健康志向や成分への関心が強くなっており、市場視察では北海道産の納豆や牛乳・生食用の卵などが増えていることを実感。それに対応した商品開発や売込みの必要性を実感したとのことでした。今後の抱負としては、「香港はアジアの他地域へ進出する拠点で魅力のある市場であり、北海道産品の販路開拓を進めたい」とのことでした。

コロナにより生活スタイルが変化した香港の今を知ることができ、今後の香港への販路拡大へ大きな一歩となったようです。



宮城日本香港協会 学生部

学生部による「香港宮城交流会」を開催しました

宮城日本香港協会学生部は、主に東北在住の香港留学生を含む県内の香港に興味を持つ学生が中心となり、月に1回の頻度で交流活動を開催しています。

◆8月交流会

8月になり、学生部のメンバーが宮城県仙台市に直接集まり、交流会を行いました。新型コロナウイルスの流行後初めてのリアルなイベントとなりました。参加者は6名で、オンラインでの交流はありましたが、このイベントでようやく実際に会うことが叶い、それぞれの経験を共有し、深い友情が芽生えました。

イベントでは、参加者の皆さんが美味しい食事を共にしながら、香港と宮城の特産品や料理について熱心な議論が交わされました。さらに、言語の交流もこのイベントで重要な要素となりました。参加者の皆さんは日本語・広東語と異なる言語を話しながらもお互いに学び合い、新しい言葉や表現を共有することで、コミュニケーションの架け橋を築きました。これは、言語が文化を理解するための重要なツールであり、参加者全員が言葉を通じてお互いの世界に更なる洞察を得ることができました。

また、この交流会では香港の参加者からは次月に迫った中秋節にちなんで奇華餅家（Kee Wah Bakery）の月餅が贈られ、宮城からは地元銘菓が贈られました。参加者全員両地域について更に理解を深める良い機会となりました。

美味しい食事、言語の交流、香港と宮城の特産品についての興味深い対話、そしてプレゼント交換——これらの要素が組み合わさり、参加者たちはただ単に知識を得るだけでなく、心からの交流を通じて深い結びつきを感じました。



8月に仙台市で行われたリアルイベントの様子

◆9月交流会

9月は「中秋節」を題材として、4名の参加者がオン

ラインで香港の中秋節について議論を交わしました。美しいランタンの灯りや花火や舞龍舞獅など、参加者の皆さんは熱心にその魅力について語っていました。香港人の参加者の方からは自分の家の自慢の料理についてのプレゼンテーションがありました。日本人の参加者にとっては、香港の中秋節の文化や伝統に触れる良い機会となりました。



9月の香港宮城交流会

◆10月交流会

続いて10月の交流会では、日本人メンバーが興味を持っているテーマ「漢方医療」を取り上げ、意見交換が行われました。

日本人参加者は、鍼灸やカッピングなどの漢方医療が持つ古くからの歴史や文化的な背景に興味津々で、香港人の参加者からその知識に関してプレゼンテーションが行われました。スライドでの発表が終わった後、香港での鍼灸やカッピングについて日本、香港の参加者から体験談が寄せられました。



10月の参加者の皆さん

学生部の香港宮城交流会は、主にオンラインでの交流を通じて文化や情報を共有し、香港と日本を結ぶ絆を深めてきました。コロナも明け、リアルでのイベントも増やしていきたいです。学生部として、今後も香港の魅力を紹介し、同時に宮城・日本の文化を香港の若い世代に広める努力を継続してまいります。



OKINAWA

沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会 福地 敦士

「香港ワイン&ダイニングフェスティバル2023」 参加しました

令和5年10月26～29日の日程で、香港ワイン&ダイニングフェスティバル2023が開催され、10月28日午後5時30分から開始される第二部に参加しました。

香港国際空港の香港政府観光局のブースでは、20香港ドルの入場チケットが、パスポートを提示した観光客には無料で提供されており、香港の地元の方々だけではなく、海外からの観光客にも魅力あるイベントです。セントラル駅近くのセントラルハーバーフロントのイベント会場で開催され、地下鉄・フェリー乗り場からも徒歩圏内で大きなイベントにも拘わらずスムーズにアクセスできました。



セントラルの高層ビルを眺める会場

香港ワイン&ダイニングフェスティバル2023は新型コロナウイルスの規制緩和後初めての開催で5年ぶりとなり300以上のブースが出展されているとのことでした。世界各国のワインやグルメを堪能できるイベントには、35以上の国や地域から出展され、アメリカやカナダ、英国、オーストラリア、日本、韓国、シンガポールなど20カ国・地域から約14万人が来場したとのこと。ワインやフードブースは国別あるいはボルドー・ブルゴーニュのように地域別に分かれており、好みの地域のワインや普段の見慣れない地域のワインや食も探しやすい、楽しめる配置となっていました。フランスやイタリア、スペイン、アメリカのナパやワシントン州のワインも魅力的ですが、中国本土のワインのブースも大きく設けられており、その質の高さは驚きでした。今後中国本土のワインは益々注目されるのだと思います。

ワイン以外にもウイスキーやスピリッツ、日本酒メーカーも多く出店していましたが、特に日本酒のブースは大きく、全国各地の日本酒メーカーが日本ブース集まっており、日本人としても、多くの日本酒を一度に味わうことができるいい機会を得ました。ステージでも「酒バレル・セレブレーション」と称して鏡開きも行われ、日本の文化を伝えるいい機会になったと思います。



音楽ライブが行われたメインステージ

フードも、「ダイニング」と称するだけあって、リッツカールトン・ホテルをはじめホテルダイニングから各国のストリートフードまで本格的な料理が並んでいました。各地域のワインブースはダイニングブースと並んでいるため、ワインと食事のマリアージュ（組み合わせ）も簡単に体感できるように工夫されています。ラクレットチーズやパエリアをいただきました。注文を受けてから調理するため少々待たされましたが、さすが本場を思わせる味でした。

海外からの観光客の入場料は無料ですが、400香港ドルを追加すれば、クーポンと一緒にガラス製のワイングラスと首掛けのストラップが渡され、人込みの中でも、ワイングラスを落とす心配もなく楽しむことができるなど、ワインを本格的に楽しむ工夫も満載です。メインステージでは、ABBAのトリビュート・バンドをはじめとアジアのミュージシャンが多く出演するなど、お酒の助けもあり大いに盛り上がりました。

セントラルの高層ビル群の美しい夜景を眺めながら、オープンエアで世界の美味しい食事とワインを楽しむことができる国際都市・香港の魅力が盛沢山の素晴らしいイベントです。

ぜひまた来年も参加したいと思います。



香港のワイン代理店のブース



広島県産品×沖縄国際物流ハブ商談会

令和5年10月26日、沖縄県主催の「広島県産品×沖縄国際物流ハブ商談会」を広島日本香港協会の事務局である公益財団法人ひろしま産業振興機構が共催し、広島県の協力のもとで実施いたしました。この取組は、那覇空港を拠点とした沖縄国際物流ハブの機能を活用し、「広島県の特産品を沖縄から20億人のアジアマーケットへ！」という開催趣旨のもと、沖縄県と連携を図りながら、海外への展開を推進するものです。

今般の商談会は、県内企業に1社5アイテムまでの条件のもとで、商品シートを提出いただき、バイヤーによる事前の選定を行ったうえで、商談の場を設定しました。バイヤーは、沖縄の商社5社と香港のバイヤーであるKITI Company Limitedの計6社が参加し、沖縄の商社5社はオンラインでの商談となる中、KITI Company Limitedご担当者のジュン・チュア氏は、遠路広島までお越しいただき、会場で直接商談を行っていただきました。

商談の前には、「海外輸出セミナー」を実施し、香港での日本商品の人気の高さ、海外進出する際の注力すべき点・注意点、商談での伝え方など、様々な情報や助言をいただきました。



海外輸出セミナー

さて、商談会では、参加申込のあった19社すべての県内企業が商談へと進み、最大4社のバイヤーと面談に進む企業が3社あるなど、海外バイヤー等の興味を惹く魅力ある商品があることをうかがわせました。

上記3社の取り扱っている商品は、広島名産の牡蠣やレモンを使った「かき醤油」、「レモン餃子」、「牡蠣餃子」や「にんにくぼん酢だれ」「生姜餃子」「食べる、珈琲。」「みそ落花生」「きなこ落花生」など少し変わった商品が注目を浴びていることが分かりました。

このうち、「食べる、珈琲。」「みそ落花生」「きなこ落花生」を取り扱う企業と香港バイヤーとの商談に同席し

ましたが、現状バイヤーが取り扱っている商品（豆菓子）は、「どこも扱っているもので面白みがなく、新しいアイテムを取り入れたい」との意向を知ることができました。また、参加企業は、120～180日の賞味期限の短さに懸念を



香港バイヤーとの商談

示されていましたが、「ロットが大きければ賞味期限も問題になるが、小ロットであれば、逆にフレッシュさを売りにすれば良い」との提案をいただき、前向きに検討を進めていくとともに、今後は、珈琲ショップやスーパー、飲食店向けに販路拡大を図っていくこととなりました。

また、もう1社、「黒にんにく」の提案を行う企業と香港バイヤーとの商談に同席したところ、実際その場で試食いただき、糖度40度以上ある黒にんにくの甘さに驚かれ、当該商品に大変興味を示されました。バイヤーからは、良い商品であり継続して購入してもらえるようにする必要があり、「黒にんにくがサプリの代わりになるほど栄養価がある点」、「パッケージの中に栄養価が分かるようなものを表示させる点」、「健康好きの間で口コミが広がっていくようにPRする点」など、多くの貴重なアドバイスをいただきました。「食べ物は教育になる。黒にんにく1粒に、どれくらいの栄養があるのかを伝えることで、多くの人への教育に繋がる」という、商談の中で交わされた言葉が大変印象的でした。

香港バイヤーと多くの県内企業が直接商談する機会を持つことができ、また、様々な意見やアドバイスをいただくなど、香港を始めとするアジアマーケットへの展開を目指す県内企業にとって大変有意義な情報交換を行うことができました。

引き続き、香港との接点を創出し、会員並びに県内企業の進出を手助けしてまいります。

香港広島県人会との交流会

「香港フォーラム2023」が12月5・6日に香港コンベンション&エキシビション・センターにて開催されましたが、当協会ではその開催に合わせ、現地の香港広島県人会の皆様との交流会を実施いたしました。コロナの影響もあり、実に5年ぶりの開催となりました。

次回飛龍106号において、交流会の様子を報告させていただきます。予定です。

NIIGATA

新潟日本香港協会

新潟日本香港協会 事務局

設立10周年を機に振り返る

新潟日本香港協会は、おかげさまで2023年に設立10周年を迎えることが出来ました。これまでの関係各位の皆様からのご支援のおかげです。本当にありがとうございました。

当協会は、新潟の産・官・学が三位一体となり、2013年に設立いたしました。民間企業・自治体・学校法人など、幅広い事業分野を持つ会員によって構成されています。香港貿易発展局を通じての華僑・華人ネットワークを活用した海外ビジネス機会の提供、農産物や食品などの特産品をはじめとした新潟県産品等の輸出機会提供やインバウンド観光等の拡大支援、会員向けを中心とした各種会合・セミナーの開催等を目的とし、活動しております。また、今後会員相互の交流を深めながら、協会の活動をより一層活発化させていきたいと考えております。会員の皆様が当協会の活動を機に、香港を中心とした海外での新たな事業展開ができるよう、当協会の発展に努めて参ります。これまでの10年間と同様に、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

改めて10年前の設立の頃を振り返りますと、当協会は2013年3月に、新潟県内の民間企業・自治体・学校法人等が中心となり発足いたしました。発足当初より現在にいたるまで、株式会社新潟クボタの代表取締役社長である吉田至夫様に会長の任を担っていただいております。当協会の特色は、「コメどころ新潟」という言葉に代表されるように、海外へお米等を輸出されている農業生産者や、輸出機会を検討されている農業生産者の方々が多数入会されているという所です。人口減・少子化・コメ離れ等により国内市場が縮小している中、海外の新たな市場へチャレンジをしようと歩みだそうとする会員様に対して、引き続き香港市場へのビジネス機会を提供してまいります。

2023年12月現在の会員数は、法人会員43社、個人会員7名、特別会員9名、合計60会員となっております。これからの10年を見据え、会員数や主催イベント数の

増加を推進していき、事業拡大を進めてまいりたいと考えております。

設立10周年の2023年12月には、協会会員を中心に香港視察ツアーを企画・募集し、実施いたしました。コロナ禍以降、久しぶりの香港フォーラム参加、久保田米業(香港)有限公司の精米工場の視察、DON DON DONKI 香港OPモール本店で開催された「新潟県産品フェア in 香港」の視察など、大変充実した視察ツアーを行なうことが出来ました。

香港と新潟の関係史

香港と新潟のこれまでの交流の歴史を少し振り返ってみたいと思います。新潟県と香港は、歴史的な経緯や文化の違いから来る独自の交流があります。まず、歴史的な視点から見ると、日中戦争や第二次世界大戦後の混乱期において、香港は多くの中国人難民を受け入れました。その中には新潟県出身者も含まれ、これが一部の交流のきっかけとなりました。

1960年代以降、新潟県と香港は経済発展とともに結びつきを強めてきました。香港はアジア地域の金融・商業の中心地として急速に発展し、新潟県との経済的な交流が盛んになりました。特に、新潟県の農産物や水産物が香港に輸出され、その反面、香港からは金融や観光業のノウハウが新潟にもたらされました。

文化面では、両地域の伝統や習慣の違いから来る相互の興味も生まれ、交流が広がりました。例えば、食文化においては、新潟の日本酒や新潟米が香港で評価され、逆に香港の中華料理が新潟で親しまれています。また、学術や芸術などの分野でも交流が進み、文化的な理解が深まっています。

現在、新潟県と香港の関係は、経済、文化、観光など多岐にわたります。経済面では、新潟県の企業が香港進出を果たし、両地域のビジネスパートナーシップが継続しています。また、文化面では交流イベント等を通じ、相互理解が深まっています。

今後の未来に向けては、新潟県と香港がお互いに持つ地域の強みを活かし、より深い連携を築いていくことが期待されます。特に、環境問題や地域社会の健全な発展などにおいて協力が求められています。また、技術やイノベーションの分野においても連携を深め、共に成長していくことが望まれます。

総じて、新潟県と香港の歴史的な結びつきや現在の交流は多岐にわたり、お互いの発展と共に歩む重要なパートナーシップとなっています。未来に向けた、香港と新潟の交流深化において、当協会が果たすべき役割は今後ますます重要度を増すと考えられます。「香港と新潟のより良き未来」のために活動してまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。





高知日本香港協会 事務局長 横山 公大

新年好

新年おめでとうございます。昨年のゴールデンウィーク以降、観光需要の巻き返しは国内のみならず全世界において顕著に表れており、ここ高知県においてもコロナ以前の水準を大きく上回っております。前号で触れました、植物学の権威、牧野富太郎博士の生涯を描いた連続テレビ小説『らんまん』、放送終了後も好調が続いており今も尚、多くの観光客が訪れています。そんな歓喜に沸く高知県に又もや朗報が届きました。来たる2025年、同じく連続テレビ小説において、今度はアンパンマンの著者、高知県出身の、やなせたかし氏を主人公にご夫妻の生涯を描く『あんばん』の放映が決定いたしました。高知県知事までもが驚くまさに寝耳に水の朗報に、関係者一同、大きな喜びに満ちております。『あんばん』につきましては、この先の飛龍にて改めてご案内申し上げます。



三翠園の外観

さて、そんな歓喜に沸く高知ですが、当然ながら観光業も盛り上がり、今号では高知県でもトップクラスの人気を誇る老舗旅館、当協会の会員三翠園と、若きリーダーである水野浩太支配人をご紹介します。

高知のお城下に位置する三翠園（創業1949年）は、土佐藩主山内家ゆかりの地として知られております。写真の外観右側のエントランスには、客人を迎える大門が威風堂々と構えており、その敷地内には重要文化財の旧山内家下屋敷長屋、明治期のはりまや橋（レプリカ）など、歴史的な建造物や四季を感じる日本庭園が、訪れる方々を幕末明治維新の歴史へと引き込んでくれます。また旅館



三翠園温泉の露天風呂



若きリーダー水野浩太支配人

の目の前には、坂本龍馬も泳いだと云われる高知市のシンボル鏡川と、名山筆山があり、大人気を博した映画『竜とそばかすの姫』や、映画『サムライせんせい』など、映画やドラマの舞台として、国内外問わず多くのファンを魅了する聖地にもなっており、散策のスポットとしても人気の場所です。

三翠園自慢の湯殿・水哉閣は、高知市内の旅館では唯一の天然温泉を保有しており、目の前に広がる鏡川と筆山を眺める露天風呂は、まさに絶好のロケーション。宿泊客のみならず地元の方々の評価も高く多くのお客様に喜ばれております。また温泉に通じるスペースには、NHK大河ドラマ『功名が辻』の主人公、山内一豊と妻千代の物語が展示されており。江戸時代から明治維新、幕末の歴史を感じるギャラリーとなっております。

高知協会の総会や定例会でもよく利用いたしますが、実は高知日本香港協会設立の集いもここ三翠園。設立から今日まで本当にお世話になっているのです。

そんな歴史ある老舗三翠園は、2021年11月に全面改装が完了。それに伴い若きリーダーが誕生しました。当協会の会員でもある水野浩太氏。業界では異例ともいえる45歳の支配人です。旅館やホテルの支配人といえば、60歳前後のイメージを持たれる方も多いのではないのでしょうか。業界において全国的にも見ても非常に若いリーダーであります。その行動力と柔軟さは地元では周知の通りです。

高知の人気観光スポット、高知城、ひろめ市場、日曜市、歴史博物館など、近隣の主要観光地へのアクセスも抜群。全国の協会の皆さま方におかれましても、高知へお越しの際には是非ともお越しいただき、若きリーダー水野支配人とのご縁も繋いでいただけたら幸いです。

寒さも厳しさを増してまいりました。各地では暴風暴雪など自然災害の心配もございますが、各協会の皆さま方におかれましては、くれぐれもご自愛いただきますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いたします。



高知名物皿鉢料理



飛龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

中部日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0021 仙台市青葉区中央1丁目6-18 山一仙台中央ビル8階
(株)Sola.com 内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オトル内

時を忘れてしまうような滞在…



ホテルアレクサンドラは、ハーバープラザホテルズアンドリゾーツの新しいブランドとして香港島のノースポイントに2021年、オープンしました。

オープン以来、いくつかの荣誉ある賞に輝いています。Asia Property Awards 2023-2024で「香港の最優秀ホテルインテリア」賞を受賞、香港国際料理大賞2023では、「シーフードカテゴリーの銅メダル」を獲得し、TTG China Travel Award 2022では、「ベストニューホテル」に選ばれました。

シャンデリアの輝く宮殿のようなグランドボールルームは、ミーティングイベントやウエディングに最適な素晴らしい会場として人気を集めています。ビュッフェやティータイムのレストランCafé Aでは、お客様の思い出に残るひと時のために心のこもったお料理をご用意してお待ちしております。



32 シティ ロード、ノース ポイント、香港 (MTR フォートレスヒル 駅、出口B)

Tel: 852 3893 2888 Email: enquiry@hotelalexandrahk.com

www.hotelalexandrahk.com

